

平成 25 年度第 1 回博物館懇談会議事録

日時：平成 25 年 6 月 5 日（水）17 時～18 時 30 分

場所：野田市市民会館 松竹梅の間

出席者：懇談会委員・生田武士、沼野秀樹、茂田井宏、米川幸克。郷土博物館長・関根一男、同事務員澁谷由梨子、同学芸員田尻美和子、柏女弘道、岩田明日香、大貫洋介（書記）。

1. 平成 25 年度事業計画について

●企画展「野田に生きた人々 その生活と文化 2013」展示見学、意見交換

田尻学芸員より博物館展示室で企画展の解説を行った（議事録省略）。その後市民会館松竹梅の間に会場を移し、意見交換を行った。

田尻：基本的には毎年同じ展示構成なので、来館者から特に際立った指摘はない。新収蔵品コーナーは毎年異なるものが展示されるため、そこでマンネリ化を防いでいる。考古コーナーも新しく発掘された土器を展示しているが、あまり気づいてもらえない。

委員：土器のキャプションに遺跡番号が付いており、地図に落とされていたのはよかったが、旧野田市域の縄文土器が多かった。旧関宿町や弥生土器などをもっと展示して比較するのも面白い。工夫次第でもっと展示にストーリーを出すことができるはず。

委員：関宿地区の資料が少ないことと、縄文時代から弥生時代へと移行する流れが分かりにくい。

委員：小学生は身近な歴史を知りたい。関宿関係の資料が少ないと、関宿地区出身の子どもたちにとって親しみが湧きにくい展示になってしまうかもしれない。遺跡地図は小学校 6 年生でも難しい。地図に学校の位置を入れると、子どもにも分かりやすくなるかもしれない。土器の修復のコーナーは子どもにも興味を持ってもらえるであろう。

委員：土器の修復は、専門家に実演してもらおうとよい。

田尻：粘土を使って子ども向けの土器作りをしている館もある。

委員：土器の修復では写真だけではなく、各工程ごとの模型があるとよい。

柏女：今年は二川小学校では出前授業等は依頼したのか。

委員：社会教育課の出前授業を依頼し、今年は火起こしと土器への縄目付け体験を行った。

委員：遺跡分布地図だけでなく、現在の遺跡の様子や発掘時の写真があるとよい。この展示が野田市民と市外から来る方のどちらをターゲットにしているのか分かりにくい。

田尻：「生活と文化展」は野田市民をターゲットにしている。

委員：現場の写真があると想像が掻き立てられ、この場所に行ってみようと思えるようになる。

田尻：市民にとって、どのような点を改善するのがよいか。

委員：例えば、地図に遺跡めぐりのモデルコースを設定する。自分の街にも珍しい遺跡があると分かれば、行ってみようという気になる人もいる。

委員：野田市のジオラマがあるとよい。あと、“炉体土器”などの名称は、専門的すぎて子ども向けでない。子ども向けにするのであれば、もっと説明をくだいた方がよい。

田尻：コーナーパネルが見にくいのは改善すべき点だと思う。

田尻：「生活と文化展」は、他の市民参加型企画展と比べると注力度合いが低い。この時期は入館者数も最も少ない。

委員：市民も、春の展示はいつも同じだと思っている。だから入館者数も少ないのでは。

澁谷：野田は弥生時代の遺跡が少ないが、中には縄文海進の痕跡がはっきり残る面白い遺跡もある。ただ、関宿の遺跡や遺物は整理状況が悪く、展示できないものが多い。

委員：できる範囲で改善を行うだけでも展示の印象はだいぶ異なる。

委員：自分の小さい頃は、地図があればその場所へ自転車で遊びに行っていた。あと、自分の子どもを他館で行っていた発掘体験に連れて行ったことがあるが、これは子どもにも好評だった。

委員：博物館のキャパシティに対して、「野田に生きた人々 その生活と文化」というテーマは大きすぎるのではないか。

田尻：タイトルは「野田の考古」等のシンプルな方が良いか。確かに、このテーマに答えを出せるほどの大規模な調査、研究は行なっていない。

委員：歴史系の展示と新規収蔵品の展示は切り離れたほうがよい。内容がごちゃごちゃになってしまう。

柏女：展示室の構造上、企画展は1階の全面を総入れ替えする形で行っているため、どちらかに分けることは難しい。

委員：歴史と新収蔵品2年に1回ずつ、隔年で行うことはできないか。

田尻：そういうやり方なら可能かもしれない。ただ、古代と中世の資料が圧倒的に少なく、考古と近世以降の間が抜けてしまう。

委員：関宿や福田地区の人にとって、この博物館は「野田市」というよりは「野田地区」の博物館というイメージがある。

澁谷：中世は古文書も含め、地域全体で資料が少ない。弥生時代の遺物が少ないのは、その時代の野田周辺の人口が少ないことにもよる。

委員：そういった説明があると、弥生の遺跡や遺物が少ない理由がわかる。あれほどいた縄文人は、弥生時代になってどこに行ってしまったのかという疑問は誰でも持つ。

田尻：この企画展は明確な回答を示すのが難しいテーマだと毎年思う。少しずつでも改善していければ。

田尻：寄贈者にとって自分が寄贈した資料が展示室に並ぶ様はやはり感慨を覚えるため、新収蔵品コーナーでは、なるべく早めに展示するようにしている。

委員：あらかじめ展示方針と展示時期を通知しておけば、2年に1回の展示になったとしても寄贈者にも理解してもらえるのでは。

柏女：以前は寄贈された資料がいつ展示されるのかということは全く説明してこなかった。

新収蔵品コーナーを設けてからは、寄贈者にいつ頃展示するかを約束できるようになった。

●寺子屋 100 回記念シンポジウム

田尻学芸員より下記の通り説明を行った。

- ・寺子屋講座のまちの仕事人講話、芸道文化講座が今年の 7 月でそれぞれ 100 回目を迎えるため、7 月 7 日にこれを記念したシンポジウムを開催する。
- ・第 1 部はキャリアデザイン講演会として法政大学キャリアデザイン学部教授の佐藤一子さんに、「市民の学びが拓くまちづくり」と題してお話をいただく。社会教育の観点から寺子屋講座を講評いただく。
- ・第 2 部では寺子屋講師と寺子屋参加者によるパネルディスカッションを行う。パネラーは 5 名。うち 4 名は寺子屋講師経験者で、1 名は寺子屋講座の常連である。テーマは「寺子屋講座を語る」として、それぞれの立場で寺子屋講座についてお話いただく。
- ・雪月桃の部屋には展示コーナーを設ける。過去の寺子屋講座のリストや、講師の近況紹介として配布物等を設置する。
- ・過去の寺子屋講師経験者にもなるべくご参加いただきたい。講師同士の新たな交流の機会となれば。
- ・寺子屋講座は今年で 8 年目となる、これまでの講座を振り返る機会にもなる。

●ミュージアムグッズの開発について

岩田学芸員より説明を行い、意見交換を行った。

岩田：現在、ミュージアムグッズの開発を進めている。計画書は業者の提案をもとにしている。ターゲットは散策に来た高齢者。絵はがきや一筆箋などを計画している。絵はがきは施設や資料の写真を使用する。一筆箋は当館の絵画・芸術作品などを元にする。また、7 月から始まる企画展にあわせて缶バッジをガチャポンで販売することも検討中である。

田尻：現在販売しているグッズはミミズク形土偶のミミーストラップや絵はがき、野田かるたなど。おしゃれなミュージアムショップがある博物館・美術館も多いが、当館にはない。現在販売している絵はがきも、郵便番号が 5 桁のままになっているなど、時代遅れの感が否めない。

田尻：ミュージアムグッズの開発は NPO の予算で行う。博物館事業として行くと売上は市に入るが、NPO の予算で行えば NPO の収入になる。組織に自活能力があることは市に管理を委託する市にとってもプラスの判断材料となる。

委員：国立歴史民俗博物館も、館内の販売は別会社化している。NPO でグッズ開発を行うことは極めて自然なこと。

委員：池沢さとしやますむらひろし等、野田出身の著名な漫画家のグッズがあるといい。小津安二郎等、野田に関わりのある著名人は多い。

田尻：グッズ開発は展示に合わせてできるとよい。

委員：野田かるたは小学校で是非使って欲しい。

委員：二川小学校のカルタクラブでは、野田かるたを使用している。

田尻：かるたは委託販売品。2割引で仕入れて販売している。

委員：グッズは販売開始時にメディアで宣伝しないとまず売れない。

委員：野田の鳥シリーズなどもよい。

柏女：展示に関するものは、展示期間中はよく売れるが、展示が終わると一気に売り上げが落ちると思われる。

委員：たとえ一過性であっても、話題性も含めて売れることに意味がある。

委員：展示が終わったあとの売り上げを考えると、どうしても無難なものになってしまう。

田尻：企画書に載っているグッズは、どれも単価が安く作りやすいものである。絵はがきの写真は以前行った展示の際にプロの写真家に撮ってもらったもの。今回展示した後藤純男の絵なども、今後の目玉になるのでは。

委員：野田は昔から漫画家が多い。今も人気雑誌に連載している漫画家が野田出身だった。

委員：市内には後藤純男の絵を所有している個人や会社がある。

田尻：将来的には、博物館で後藤純男展ができるかもしれない。

2. その他

●次回博物館懇談会の日程

- ・議題は11月2日から開幕する特別展に関する意見交換。日程は追って検討する。